

AFJ 連続セミナー

「どうするオバマ、どうなるアメリカ」第2回

【ティーパーティーはワシントンを変えるか】

社団法人アジアフォーラム・ジャパン（AFJ）は来る1月26日に、AFJ連続セミナー第2回【ティーパーティーはワシントンを変えるか】を笹川平和財団（SPF）の助成・協力を得て開催します。2010年のアメリカ中間選挙で最もホットな話題は「ティーパーティー運動」でした。ティーパーティー運動は、反「オバマ」・反「大きな政府」を合言葉として中間選挙の結果に大きな影響を及ぼし、同運動の動向は今やアメリカ政治の台風の目となっています。

今回のセミナーでは、ティーパーティー運動を代表する組織の一つフリーダム・ワークスのCEO、『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙のコラムニスト等の保守系活動家、政策知識人を招き、日本ではあまり知られていないティーパーティー運動の真の姿や、同運動がワシントン政治に与える影響等について徹底的に議論します。

<来日予定パネリスト>



ジョン・ファンド

『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙
コラムニスト



マット・キビー

フリーダム・ワークス
CEO



ジェームズ・ルシア

シンジケート・コラムニスト

■ 1月26日（水）15:00-17:00

■ 日本財団ビル2階会議室（港区赤坂1-2-2）

<同時通訳（日・英）あり／参加無料>

参加申込はこちらから → <http://asianforum.jp/>

（ホームページからの申込は1月7日からとなります）

主催：社団法人アジアフォーラム・ジャパン（AFJ）

電話：03-5570-0321 Email：event@asianforum.jp



* 駐車場はございません。

「どうするオバマ、どうなるアメリカ」第2回
【ティーパーティーはワシントンを変えるか】パネリスト略歴

■ **ジョン・ファンド** (John Fund)

『ウォール・ストリート・ジャーナル』紙コラムニスト

保守系ジャーナリストを代表する一人。政治・経済・社会・歴史に関する圧倒的な知識と、全米に広がる人的ネットワークを武器に繰り出すコラムは、ワシントンの政策決定者や議会関係者、そして全米の草の根活動家から常に注目を集める。1984年、*Wall Street Journal* (WSJ) 紙に論説次長として参加。1995年から2001年までWSJ紙編集委員を務め、現在はWSJのコラムセクション“On the Trial”を担当している。また保守系言論誌 *American Spectator* 誌のシニアエディターも兼任する。1992年の著書 *Cleaning House: America's Campaign for Term Limits* でウォーレン・ブルックス賞を受賞している。

■ **マット・キビー** (Matt Kibbe)

フリーダム・ワークス CEO

「ティーパーティー（茶会）運動」の中核的存在であり、いまワシントンで最も注目を集める人物の一人。中間選挙前後は主要ネットワークに連日出演し、茶会の「スポークスマン」として活躍した。90年代後半にフリーダム・ワークス (FW) に参画し、そのリーダーシップのもと、FWは広範なネットワークを全米に構築し、ワシントンの政策決定過程のみならず、連邦・州レベルの選挙結果を左右するほどの存在となった。80年代からエコノミストとして活躍し、これまでに米国商工会議所で連邦政府予算ディレクター、共和党全国委員会で上級エコノミストなどを歴任。また、2003年までダン・ミラー下院議員の首席補佐官と下院予算委員会政策スタッフを務めた。

■ **ジェームズ・ルシア** (James P. Lucier, Jr.)

シンジケート・コラムニスト

キャピタル・アルファ・パートナーズ LLC, マネージング・ディレクター

プリンストン大学で日本史を専攻した日本通。WSJ紙などにも寄稿するコラムニストであり、ワシントンに広範な人脈を持つことでも知られる。保守派グラスルーツ団体の要といわれる Americans for Tax Reform (ATR) でグローバー・ノーキスト会長に側近として仕え、1994年のアメリカ保守革命を草の根から支えた一人である。連邦議会にも幅広いネットワークを持ち、例えば下院エネルギー・商務委員会の上級政策スタッフらと特に親交が厚い。過去にプルデンシャルグループのグローバル・エクイティ・リサーチ社副社長などを歴任し、ワシントンのビジネス界とも強い繋がりを持つ。